ふかまちのまど
第五十五号
九八（平成十）年十月一日発行

教育現場で思うこと（十四）

成末　肇士

「二一世紀を展望した我が国の教育の在り方について」、と題した中央教育審議会の第一次答申（平成八年七月）、第二次答申（平成九年六月）を、すこし長くなりましたが、前回、前々回に紹介しました。

世の中では、相変わらず青少年がひき起こす事件が跡を絶ちません。文部大臣は、再び中央教育審議会に「幼児期からの心の教育の在り方」について諮問しました。従来、文部省が「家庭教育」に踏み込もうとした事はありません。「心」の問題こそが現在の教育の基本にあること、家庭に「心」の教育の根源があると考えたのでしょう。

中央教育審議会は、今年（平成一〇年三月）中間報告を文部大臣に提出しました。この中間報告には「家庭教育」について、大切な興味ある内容を述べています。私が今まで「心の教育」に関して書いてきたことと比べて読んでもらう為に、主項目を抜粋します。報告内容は四章に分かれています。

第一章　未来に向けてもう一度我々の足元を見直そう。

(1)「生きる力」（自分で課題を見付け、自ら学び自ら考える力。正義感や倫理観等の豊かな人間性、健康や体力）を身につけ、新しい時代を切り拓く積極的な心を育てよう。

(2)正義感・倫理観や思いやりの心など豊かな人間性をはぐくもう。

豊かな人間性とは、①美しいものや自然に感動する心などの柔らかな感性、②正義感や公正さを重んずる心、③生命を大切にし、人権を尊重する心などの基本的な倫理観、④他人を思いやる心や、社会貢献の精神、⑤自立心、自己抑制力、責任感、⑥他者との共生や異質なものへの寛容。

(3)社会全体のモラルの低下を問い直そう。

(4)今なすべきことを一つ一つ実行していこう。

第二章　もう一度家庭を見直そう。

(1)家庭の在り方を問い直そう。

- 思いやりのある、明るい円満な家庭をつくろう――子どもたちが真にそれを望んでいる。
- 夫婦間で一致協力して子育てをしよう。（別紙　図一参照）
- 会話を増やし、家庭の絆を深めよう。
- 過干渉を止めよう。（図二）
- 父親の影響力を大切にしよう。
- ひとり親家庭も自信を持って子育てをしよう。

(2)悪いことは悪いと、しっかりしつけよう。

- やっていけないことや、間違った行ないはしっかり正そう。（図三）
- 自分の行ないには責任があることを気づかせよう。
- 自分の子だけよければよいという考え方をやめよう。
- 思春期の子どもから逃げず、正面から向かい合おう。
- 「普通の子」の「いきなり型」非行の前にあるサインを見逃さないようにしよう。
- 身の回りの小さなことから、環境を大切にする心を育てよう。

(3)思いやりのある子どもを育てよう。

- 祖父母を大切にする親の姿を見せよう。（図四）
- 手助けの必要な人を思いやれるようにしよう。（図七）
- 差別や偏見は許されないことに気づかせよう。
- 生き物との触れ合いを通して、命の大切さを実感させよう。
- 幼児には親が本を読んで聞かせよう。

(4)子どもの個性を大切にし、未来への夢を持たせよう。

- 幼児期から子どもの平均値や相対的な順位にとらわれることをやめよう。（図五）
- 子どものよいところをほめて伸ばそう。
- 人間としての生き方や、これからの社会について子どもに語りかけ、子どもの将来の夢と希望を聞こう。（図六）

以下次号へ

▲▲

深町の皆様へ

如水館中、高等学校
校長　向井　景昭

深町の皆様には、平素より学校の教育活動につきましてご理解とご協力をいただき、深く感謝いたしております。

特にこの夏、野球部の二年連続甲子園への出場に際しましては、心強いご声援とご支援をいただき有難うございました。今回の第八十回という記念広島大会では、選手たちは試合ごとに強くなり成長して、参加九十六校の中で優勝を果たしてくれました。

広島県代表として、甲子園では、第一回大会以来八十三年ぶりの歴史に残る大雨にみまわれ引き分けにおわりましたが、再試合では専大北上高校に一〇対五で勝ち、校歌も初めて聞くことができました。第三回戦は、準優勝校となった京都成章高校に三対五で惜しくも敗れましたが、悔いのない試合の中に如水館スピリットを力強く発揮してくれました。

これも、出発に際して幸谷会長さんからの激励のお言葉をはじめ、皆様から物心両面にわたるご支援を頂いたお陰だと、選手、監督、部長ともども感謝いたしております。

これからも、この野球部のみならず、勉学やクラブ活動も含め全ての学校生活で頑張り、学園の発展に努力してまいります。今後とも暖かいご支援をいただきますようお願い申し上げます。

▲▲

インドネシア（ジャワ　バリ島）旅行記（五）

＝バリ島の農業＝

高崎　壽郎

バリ島は、四国ぐらいの広さの島で、約二八〇万人の人が住む。島全体が石灰岩からできているとのことで、太古は海底だったことがわかる。

島には空港のあるデンパサルという大きな町もあるが、全体に緑の多い田園風景が拡がる。バナナ、パイナップル、ヤシ、マンゴなどの木が多く見られる。

主な産物は、米、サツマイモ、トウモロコシ、サトウキビ、タバコ、落花生だという。

バスの中から農村風景をみる。田圃は、稲刈りをしている田、田植えをしている田、青々としている田、雀おどしが一杯の田などで、稲は年中できるそうだ。そう言えば、稲刈りの終わった隣の田で田植えをしているのがみえた。

よくみると、機械化された農具類は何もない。牛と犂（すき）、鍬、鎌の農業である。田植えも、一枚の田に大勢の人が入り手植えをしている。もちろん子どもも。

ガイドの話では、田植えも稲刈りも何軒かで共同でしているとのこと。終戦頃までの日本の米づくりとよく似ている。

戦後、農具が機械化されるにつれ、我が国では各戸単位の米づくりとなった。高い農機具代に追われだし、その代金を払うために勤めに出、休日の農業が多くなった。これでは、以前の農業と比べてどちらが幸せかわからない。専業農家もめっきり少なくなった。

バリ島の農民は貧しい。私の眼には、やせて疲れているように映った。永い間の植民地支配の影響がまだ残り、農業の近代化を妨げているのかも知れない。

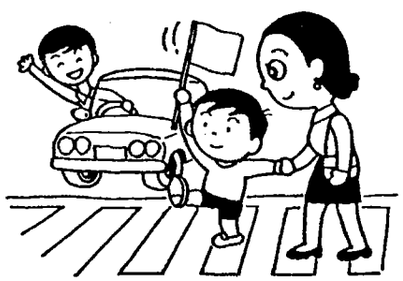
炎天下、農民が畔（あぜ）の草を黙々と鎌で刈っている。牛が傍でゆっくり草を食（は）んでいる。時間も止まっているような風景。

牛は各農家に平均二頭はいるようだ。牛は我が国の耕運機やトラックターに当るもので、農家では大切に育てる。特にヒンズー教徒（印度教）の多いバリでは。

＝次号はバリ島の宗教＝

▲▲

十一月行事予定は裏面に



展望席

年に一度「契約」更新　互いの夢実現支援も　ユニーク結婚記念日

こんな見出し記事が去る十月の全国紙家庭欄に載りました。「今日で一年の契約結婚は終わりました。次の一年は？…」。ということで、よければ新に向こう一年の契約。駄目なら、はいさようなら。誰にも拘束されず、自由がベースのバラ色の夫婦関係。

▼――夫婦相和し…共に白髪の生えるまで。の戦前教育を受けた我々の年代・年齢の者には理解し難い世相です。生まれた子どもを一人前に育て、親の歿りを見届けるのが子の役目。と考えるのは時代にマッチしない思想なのか。人のみちも時代と共に変わることを示唆したようにこの記事は読めます。▼が、契約で結ばれる夫婦関係にどんな意味があるのでしょうか。金銭貸借と夫婦関係を同一線上で扱うことが「合理的」でしょうか。「家庭崩壊」の結果を冷静に考えたい。▼自由を謳歌したい気分もわからぬではないが、その前に子どもを初めとする肉親への影響も考慮すべきです。結婚・離婚に伴うリスクは、「自己負担」が原則。契約婚はユニーク？

修学旅行の思い出（4）

和田　浩太郎

五月十四日、十五日に修学旅行があった。まず、初めての体験は新幹線に乗った事だった。ぼくは新幹線を「ものすごい速さで走るんだろう。」と思ってたけど、乗ってみると速いような気がしなかった。「なんだ、電車とあまり変わらないじゃないか。」と思った。

新大阪で新幹線を降りると、バスに乗って海遊館に行った。海遊館はものすごい広さで、特に真ん中の水そうが大きかった。その水そうに、ジンベエザメがいた。ジンベエザメは大きな物で十八メートルにもなるそうだ。初めて見た感想は「大きいなあ」だった。そしてよく見ると、いろいろな魚がついて泳いでいた。この関係を「共生」というそうだ。共生とは、生物がたがいに助け合って生活する事だ。「魚の世界でもたがいに助け合って生きているんだなあ」と思った。魚を見た後回ものをした。自分にはシャチのファイルを、おねえチャンにイワトビペンギンのボールペンを買ってあげた。

次に法隆寺に行った。法隆寺は、世界で一番古い木造建築物だそうだ。それに、五重の塔もすごかった。その中でも一番感心した所は「九輪」だ。九輪はかさの役目をする物で、九つ輪があるから九輪というそうだ。「昔の人々はこうゆう物を作って五重の塔を災害から守っていたんだなあ」と思い、感心した。金堂の中や五重の塔を見た後、講堂の中に入った。中にはいろいろな仏像が置いてあった。残念だったのが「百済観音像」の本物が見れなかった事だ。形は複製とあまりちがわないだろうけど、雰囲気はどんな感じかという事で見てみたかった。

最後に東大寺に行った。まず南大門におどろいた。大仏を見るまでは、金剛力士像が「でっかいなあ」と思っていた。だけど大仏はくらべ物にならないほど大きかった。この大仏を作るために働いた人は、のべ二六五万人といわれ、当時の国民三人に一人が参加したそうだ。「大仏は国の乱れをしずめるために作った物だけど、農民たちにとっては生活を苦しめる事になったんじゃないかな。」と思った。

東大寺を見学したあと、ホテル「さるさわ」に行った。ホテルは古そうだったけど、部屋はなかなかよかった。

次の日、初めに清水寺に行った。清水寺はものすごい人でなかなか進めなかった。坂を上って清水の舞台へ行った。清水の舞台はかなり高いような気がした。感心した所は、くぎを使わないで木を組み合わせて作ってある所だ。なぜ感心したかというと、今のような技術もない時代に、しっかりと、しかも今までこわれる事もないほどじょうぶに作りあげられているからだ。残念なことは水が飲めなかった事だ。今度行ったら水を飲んでみたいです。

次に二条城に行った。二条城はうぐいす張りの床がおもしろかった。うぐいす張りの床を進むと「キュッ　キュッ」と鳴いたような音がした。ふすまには、松やぼたんの花などが書かれてあって、とてもきれいだった。部屋でおどろいたのは、徳川慶喜が大名をあつめて、幕府政治をやめる事を伝えた部屋だ。この部屋は、びょうぶのとびらのような物の中に部屋があって、その部屋に将軍を守る武士たちがいて、いざという時はすぐに飛び出せるようになっていたそうだ。こういう仕組みあるということは「争い事が多かったんじゃないかな」と思った。

次は金閣寺へ行った。金閣寺はぜんぶ金ぱくがはってあるんだと思っていたけど、二階と三階は金ぱくがはってあるけど一階ははっていなかった。金ぱくのところはピカピカしてきれいだった。

「うわー。こんな建物を別荘にしていたのか」とびっくりした。

最後は東映映画村に行った。おもしろそうなゲームあったけど「おみやげを買って、お金が余ったらやろう」、と思っておみやげを選んでいたら時間がきて何もできなかった。だけど、俳優さんといっしょに記念写真がとれてよかった。現像が楽しみだ。

修学旅行では、楽しみながらいろいろな事を勉強できてよかった。これからも、楽しみながら歴史を勉強していきたいです。

▲▲

謹んでお悔み申し上げます

▼小川マサノ様　八十歳　十月三日

十一月町内各種団体行事予定

◆小学校（幼）
▼市P連バレー大会　一日
▼集金日（幼）――　五日
▼　同（小）――　六日
▼体重測定（幼）――　九日
▼貯金日・PTA役員会　一〇日
▼体重測定（低）――　一二日
▼　同（高）――　一三日
▼新入園児受付始め　一六日
▼誕生会（幼）――　二六日
▼学習発表会――　二九日

◆女性会
▼親睦会　上＝二日　中＝八日　下＝八日

◆町内会（上）
▼親睦旅行――　八日

ご協力 有難うございました

☆市民体育大会（一〇月一〇日）には二百余人の参加がありました。クラス順位は六チーム中、四位でした。（三原西部は不参加）

一位は、（中女子）四百米リレー　同（中男子）　同（一〇以上男・女）借物競争

☆敬老会（一〇月一八日）招待総数一四五人の内、当日出席いただいたのは、前日の台風の影響で四六人でした。

☆恒例の秋祭りは、一〇月二四日、町民皆様大勢のお参りで盛会裏に終わることができました。

厚くお礼申し上げます。

町内会連合会・千川神社役員一同

▲▲

◆野球部長　山根　武邦

甲子園出場の際、ご支援、ご協力いただきた全ての方々に心から感謝申し上げます。有難うございました。

◆監督　迫田　よしあき

昨年に続き今年も夏の甲子園を、経験できたのも日頃応援してくださる皆さんのお陰です。特に、深町の方達と喜びを味わったことが、又来年一緒に笑ってもらって、楽しい夏の大会にしたいと、心に決めております。

本当に有難うございました。

1，小町　祐貴
先輩達には本当に貴重な経験をさせてもらった。この経験を大切にしてこれからも頑張っていきたい。

2，徳田　乾
高校野球最大の晴れ舞台「甲子園」得た経験と自信は大きかった。これで終わるわけにはいかない。

3，村山　準一
最後の夏に最高の思い出ができた。野球部を応援してくれた全ての人に感謝したい。

4，竹玄　圭吾
先輩達と全力を尽くして手にした甲子園一勝、最高でした。まだまだ上を目指します。

5，松浦　孝祐
部長や監督コーチ、応援してくれたみんなに感謝の気持ちでいっぱいです。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」。

6，高橋　淳
甲子園に行くためにみんなでやってきた。一つ一つが大きな財産になった。

7，森田　成
「甲子園」という最高の舞台でプレーができ、校歌を歌ったことを一生の宝にしたい。

8，丸目
二年生出場でいい経験になった。今度は全国制覇目指し頑張りたい。

9，藤田
夏の大園でプレーができたことが後輩たの目標しかった。ちはまだ上ほしい。を目指して

甲子園の土

大介
甲子園にきとてもいになった。

武智
舞台、甲子レーが出来しかった。ちはまだ上を目指して

10，山野　亮輔
甲子園でプレーできたことが僕にとってプラスになったと思う。「甲子園優勝」を目指してまたがんばる。

11，大本　浩之
よい経験でした。来年は今年よりも長く甲子園で野球をしていたい。

12，岡田　浩志
甲子園でいろんな体験をさせてもらった。今度は、自分達の力で甲子園に行きたい。

13，本山　誠
この仲間達と、大舞台の「甲子園」で最高の思い出をこの夏、つくることができました。

14，杉山　武
夢が叶い、みんなと長く野球ができて幸せだった。支えてくれた人達に感謝したい。

15，吉田　健一郎
あらたに如水館高校の歴史をつくれてうれしい。そして、来年それをぬりかえてほしい。

16，田中　康夫
自分が甲子園のグランドに立っているのが信じられなかった。本当に感動しました。

17，田口　哲也
周りの全ての人のおかげで、あんなすごい土を踏めて感謝しています。

▲▲

春夏秋冬

梶谷　マサヨ

鴉一羽　雨降る中も　動ぜずに
電柱先で　下界みており

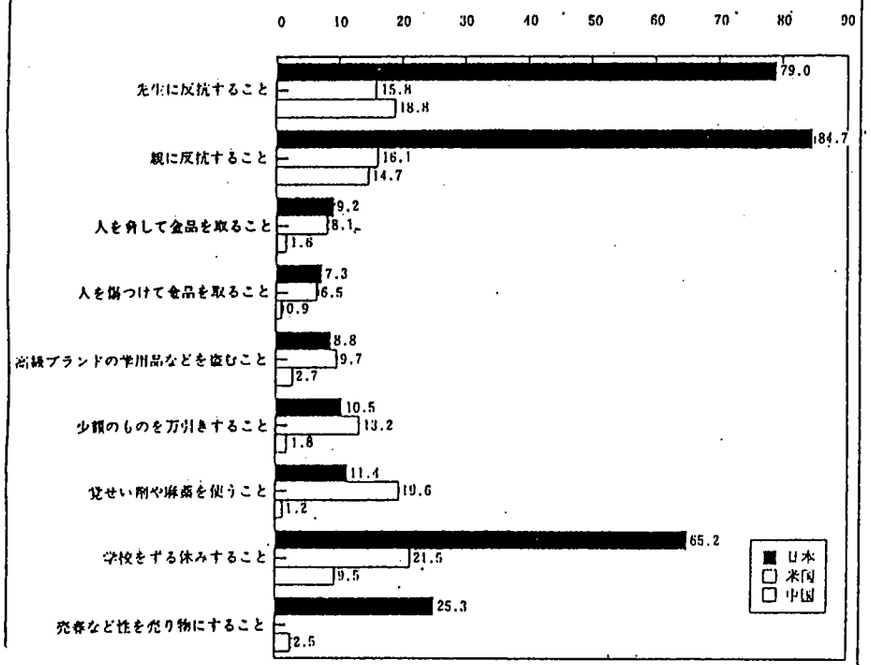
亡き夫の遺歌集となる第三歌集
この三回忌に　望み果たせり

庭の松　姿形を　整えし
荘厳済ませ　三回忌を待つ

〈付 図〉教 育 現 場 で 思 う こ と

図3 日・米・中の高校生の規範意識

「本人の自由でよい」と回答した者の割合



(注) 各国とも約1,000人を対象に調査。アメリカについては性に関する項目は調査から除外。
資料:「ボケベル等通信媒体調査」平成8年・日本青少年研究所

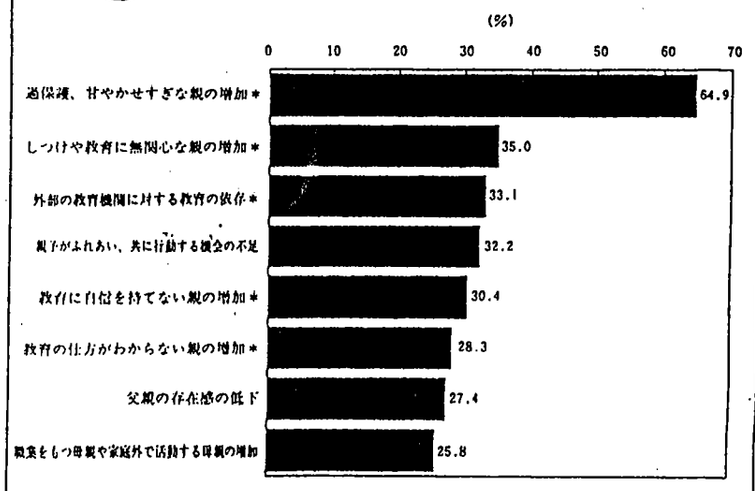
図1 子どもと一緒に過ごす時間

(時間)

	父親	母親
日本	3.32	7.44
韓国	3.62	8.40
タイ	6.00	8.06
アメリカ	4.88	7.57
イギリス	4.75	7.52
スウェーデン	3.64	6.49

(注) 各国とも0～12歳の子どもと同居している親約1,000人に対して、平日どのぐらい一緒に過ごしているか(睡眠時間は除く)を聞いた結果の平均
資料:「家庭教育に関する国際比較調査」平成6年・文部省

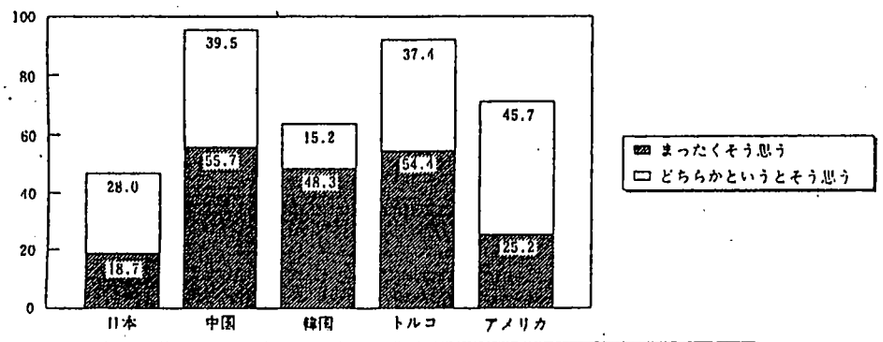
図2 家庭の教育力が低下している理由



(注1) ＊は選択肢が長いため、その一部を省略して表記している
(注2) 全国の20歳以上の者のうち、「最近は家庭のしつけなど教育する力が低下していると思う」と答えた者約5,500人にその理由を聞いた結果(複数回答可)
資料:「青少年と家庭に関する世論調査」平成5年・総理府

図6 将来のための努力に関する価値観

「今よりも将来のために努力する」ことについての考え



(注) 各国とも約1,000人の中・高校生を対象に調査
資料:「青少年の非行的態度に関する国際比較研究」等・平成5／6年・中里他

図4 高齢の親の面倒

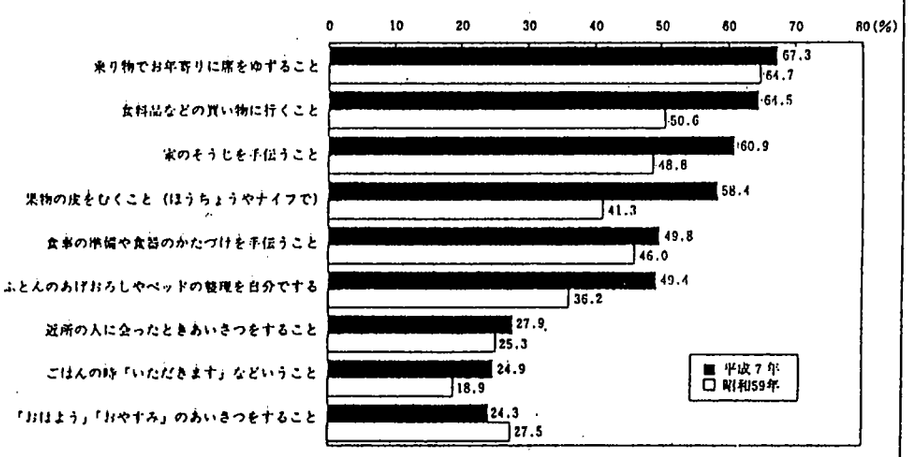
(単位:%)

	日本	米国	中国
どんなことをしてでも親の面倒をみたい	15.8	46.4	66.2
100%ではないが自分の出来る範囲で親の面倒をみたい	75.2	38.3	32.8
子どもに頼らず親自身が貯えをしておくべきだ	2.2	2.2	0.4
公的援助や福祉にまかせる	1.3	0.8	0.1
よくわからない	5.5	12.0	0.5
無回答	0	0.3	0.1

(注) 各国とも全国の高校生約1,000人を対象に調査
資料:「日・米・中　高校生の親孝行に関する調査」平成7年・日本青少年研究所

図7 日常生活における様々な体験

「全然していない・しないときが多い」とした回答値

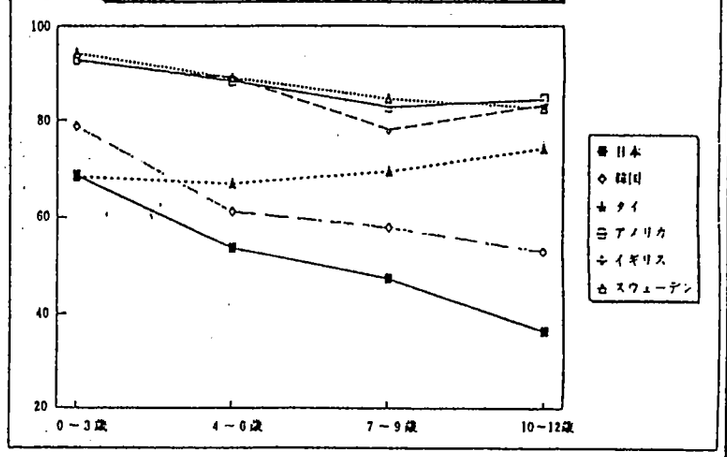


(注) 1都5県の小学4～6年生及び中学1、2年生、約2,000名を対象に調査。
資料:「子供たちの自然体験・生活体験等に関する調査研究」平成7年・青少年教育活動研究会

子どもの成長についての満足度

図5 子どもの成長についての満足度

子どもの成長に満足していると回答した者の割合



単位:%

	日本	韓国	タイ	アメリカ	イギリス	スウェーデン
0～3歳	68.7	78.7	68.5	93.1	92.7	94.4
4～6歳	53.7	61.1	67.0	88.5	89.1	89.2
7～9歳	47.3	57.8	69.4	82.8	78.1	84.6
10～12歳	36.3	52.9	74.1	84.5	83.3	82.7

(注) 各国とも0～12歳の子どもと同居している親約1,000人を対象に調査
資料:「家庭教育に関する国際比較調査」平成5年・文部省